

2019 年度
事業報告書

2019年1月1日から
2019年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

本法人の事業内容は、公益財団法人世界こども財団 定款第3条に基づき、下記の通り定義する。

第3条（目的）

この法人は、日本国内及び世界の国々の中で、さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めている子どもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

1 この法人は、前条の目的を達するため、次の事業を行う。

- （1）被災地の子どもたちや青少年への支援事業
- （2）子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
- （3）子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業
- （4）子どもたちや青少年の自立支援事業
- （5）前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業については、国内及び海外において行うものとする。

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から8年目を迎え変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリング、スポーツ交流、県外体験学習及び健康相談会を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地（福島県相馬市・南相馬市・新地町）は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童・生徒、教員及び保護者等が見られることから、昨年度までと同様彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請がきている。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO法人相馬フォロアチーム、NPO法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働して支援を行った。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行った。
- ・子どもたちは、震災による一時的なストレス反応はほぼ見られなくなっているが、現状を受け止めながら学校を過ごしており、表面上は元気にふるまっているのが実情である。また、健康診断・内部被ばく検査・外部被ばく検査など、被災地の中においても他の地域にはない精神的な負担がかかっており、こども、親、そして教員の継続的かつ精神的、専門的なサポートが必要である。本事業は次年度も継続する。

・カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県南相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	毎月3日間、南相馬市の小学校、中学校で実施した。
備考	・【支援者（機関）】 相馬市・南相馬市教育委員会、NPO法人相馬フォロアチーム、NPO法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 【実績】 ・2011年度より継続実施		

(2) スポーツ交流

- ・被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、前年度に引続きこどもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。

本開催要請は、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施した。

- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に

関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行った。

- ・本年度は星槎湘南大磯キャンパスのサッカー場の改修工事等の事情により、2019年1月の福島県相馬市でのプログラムのみ実施した。相馬光陽サッカー場にて1月19日に8チーム参加によるサッカー大会、1月20日には小学校4年生から6年生を対象としたサッカースクールを開催し、計96名が参加した。次年度は1月に同じく福島県相馬市において、8月に星槎湘南大磯キャンパスの計2回を実施予定である。

・スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
<ul style="list-style-type: none"> ・星槎奥寺カップ2020 ・こどもサッカースクール 	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒、青年等	2019年1月19日～20日
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学など）、学校法人国際学園 ・【実績】 ・2016年度より継続実施 		

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための

支援事業

1 方針

- (1) エリトリア国の農業の発展に対し、日本の有機農業を学ぶとともに実践し、帰国後に農業指導者としてエリトリア国に貢献できる人材育成を支援する。
- (2) エリトリア国のスポーツを通して人間形成を目指し、かつスポーツアスリートを養成するスポーツアカデミーの運営を支援する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア：農業支援

- ・2017年5月、エリトリアを訪問し、現地政府との会談の中で農業省から農業指導者を育成するプログラムへの候補者がいるので支援してほしい旨の依頼があった。この研修プログラムを通し、日本の有機農業の理論と実践を通してエリトリアの農業の活性化を促すことを目的とする。有機農業が定着することにより、安全・安心な作物の栽培、家畜の飼育が可能となり、エリトリア国民の保健衛生、医療環境の向上に寄与できる。
- ・2018年度にエリトリア農業省から2名招聘し、2018年4月～12月の間で研修を受けた。
- ・2019年度については、上記研修生の帰国後の成果を検証しつつ、今後の協働へ向けた検討を行った。

- ・5月に現地を訪問し、2018年度の研修に参加した2名の研修生と面会を果たした。研修の振り返りや近況報告、それから今後の活動に関する対話を行った。また、農業省大臣とも新たな農業研修生の日本での受け入れに関する協議を進めた。

・有機農業指導者育成の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
有機農業指導者の育成	エリトリア（農業省）	エリトリア農業省が推薦する農業従事者	-
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度はエリトリア農業省との打ち合わせ、前年度の実績の振り返りを行った。 ・【協働者（機関）】 エリトリア国農業省、学校法人アジア学院 		

(2) エリトリア：スポーツアカデミーの運営支援、関連施設の補修への支援

- ・2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーを開設することにより、エリトリアのこどもたち、青少年に安全な環境で安心な教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技場トラックの破損がひどくその修繕について支援する。
- ・2018年度は、関連する陸上競技場トラックの修繕支援を実施した。
- ・2019年度は引き続きエリトリア国文化スポーツ庁との情報共有と協議を行った。現地での準備が進んでおらず具体的な支援には至らなかったが、2020年度も継続し協議を進め実施していく。

・スポーツアカデミーの運営支援、関連施設の補修概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
スポーツアカデミー運営支援、関連施設の補修	エリトリア（文化・スポーツ庁）	首都アスマラを中心とする青少年	今年度は協議を継続、次年度も継続事業とする
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、エリトリア陸上競技連盟、学校法人国際学園 		

(3) エリトリア：Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

- ・2018年1月のエリトリア訪問時に、Unicefからの依頼を受け協議を実施した。Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。
- ・その後も継続的にプログラムの具体化と予算立てについて協議を行い、2019年より Unicef の選定したモデル校において実施する方針で合意した。

・2019年5月に現地を訪問した際に、幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動統合プロジェクトに関しUnicef エリトリアとプログラムの具体的な工程計画について確認し、10月には第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始した。今後は定期的に Unicef エリトリアからの報告を受けつつ、事業の継続、発展に向けて協議を行う予定である。

・Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
現地学校およびコミュニティ支援	エリトリア (Unicef およびその選定校)	Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ	2019年10月より
備考	・【協働者 (機関)】 Unicef エリトリア		

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア、ブータン、ミャンマーとの国際相互理解を図るため、同国より陸上に才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。

また、上記3国については、2020年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ協定を締結したので、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と協働で受け入れを実施していく。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生 (高校生) の受け入れ

- ・エリトリアより、陸上に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。
- ・3月にエリトリアより新規留学生3名(陸上)の受け入れを開始した。現在星槎国際湘南で日本人生徒と共に日々競技の練習、学業に励んでいる。また、9月には陸上コーチと共に現地を訪問し、次年度留学生の選定を実施した。

・留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア（文化スポーツ庁・陸連）	前年度までの留学生の継続受け入れおよび、新規3名	2017年より継続 新規受け入れ：2019年3月
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南 ・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、エリトリア陸上競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC） ・【実績】 2017年度より継続実施 		

(2) エリトリア留学生（大学生）の受け入れ

- ・高校生と同様にエリトリアより、陸上に才能があり、かつ現地高校を卒業し学士取得を目指している人材を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。在学中にオリンピック出場を目指す。また、日本の高等教育を受けさせることにより、将来、エリトリアの発展に寄与し、そして日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を育成する。
- ・前年（2018年）、エリトリアより大学生候補者が挙がってこなかったため、今年度の受け入れは実施せず。次年度（2020年）の候補者も全て高校生年齢だったため、大学生の選定は行わなかった。一方で9月に星槎国際湘南を卒業したエリトリア人留学生1名が星槎大学に進学したため、エリトリア人大学生は総勢2名（星槎道都大学1名、星槎大学1名）となった。

・留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
エリトリア若手陸上選手の合宿受け入れ	エリトリア（文化スポーツ庁・陸連）	前年度までの留学生の継続受け入れ、および高校卒業生の新規受け入れ1名	2017年より継続 新規大学入学：2019年10月
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【受け入れ校】 学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学 ・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、エリトリア陸上競技連盟、学校法人北海道星槎学園、学校法人国際学園、公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC） ・【実績】 2017年度より継続実施 		

(3) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ブータンより、陸上・アーチェリー・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育、または高等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。
- ・今年度より柔道留学生2名の受け入れを星槎道都大学で開始した。ブータン人留学生は総勢5名（星槎道都大学2名、星槎大学1名、星槎国際湘南2名）となった。2名の柔道留学生は、8月の世界柔道選手権東京大会にブータン代表として出場。また12月にネパールで開催された南アジア大会にも出場し、それぞれの階級において両名とも銅メダルを獲得するなど学業のみならず、アスリートとしても日々躍進している。
- ・2018年に来日したアーチェリー競技の高校生2名を受け入れ継続、また9月に星槎国際湘南を卒業したブータン人留学生（陸上競技）1名が星槎大学に進学し、受け入れを継続している。

・留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ブータン（オリンピック委員会・陸連・アーチェリー連盟、柔道連盟）	ブータンの大学生（進学1名、新規受け入れ2名） 高校生（継続2名）	2018年度より継続 2019年4月より大学新規2名、10月より進学1名
備考	<p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>・【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同陸上競技連盟、アーチェリー連盟、柔道連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益社団法人日本ライフル射撃協会、公益財団法人全日本柔道連盟</p> <p>・【実績】 2018年度より継続</p>		

(4) ミャンマー留学生（高校生）の受け入れ

- ・2018年4月にミャンマーオリンピック委員会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ協定を締結したことによって、エリトリア、ブータン同様に次項事業を実行していく。
- ・エリトリア、ブータンと同様に、ミャンマーからも、柔道・空手・水泳・陸上などに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。
- ・4月よりミャンマーからは初の長期スポーツ奨学生となる3名（空手）の受け入れを開始した。現在星槎国際湘南で学び、競技の練習に励んでいる。次年度も空手競技で新規留学生をミャンマーより受け入れ予定である。

・留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ミャンマー（オリンピック委員会、空手連盟、スポーツ体育学校）	ミャンマーの新規高校生 3名	2019年4月より
備考	<p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>・【協働者（機関）】 ミャンマーオリンピック委員会、同国保健スポーツ省、同国空手競技連盟、同スポーツ体育学校、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p> <p>・【実績】 2019年度から実施</p>		

(5) エリトリア、ブータン、ミャンマーの2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ

- ・2016年にエリトリア、2017年にブータン、そして、2018年にミャンマーと上記大会の事前キャンプ協定を締結したので、当該国と調整の上、事前キャンプを開催年に向け実施していく。
- ・2019年度は、事前キャンプという名目では選手の受け入れは実施しなかったが、各国での選手育成やアーチェリーのISPSハンダカップ（後述）への招聘など、支援を継続した。また、各国オリンピック委員会との協議を進め、また各自治体、団体との連携を図り、国内での受け入れ体制の整備を実施した。次年度前期には、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける3カ国の代表選手や関係者の来日、事前キャンプ実施に向けての受け入れ体制を確定する予定である。

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
事前キャンプ受け入れ	エリトリア、ブータン、ミャンマー	当該国のオリンピック候補選手など	2020年の実施へ向け通年 通し準備、支援を実施
備考	<p>・【受入れ場所】 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>・【協働者（機関）】 各国オリンピック委員会、関係省庁および競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p>		

(6) パラリンピック参加に向けての支援

・オリンピックに比して、パラリンピックへの参加に向けた基盤が整備されていない側面がある。広く共生社会の実現を目指すうえでもパラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。

この事業を推進するために現地訪問も含める。

・ブータン：現地訪問をした際に各関係機関・団体との協議の中で聞き取り調査を実施し、パラリンピック・ムーブメントが徐々に国内で広まりつつあることを確認した。2019年4月には国内初となるパラリンピック・デイが開催され、世界こども財団では車椅子福祉車両2台を寄贈するなど、大会支援者としてこのイベントに参加した。また、ブータンパラリンピック委員会の創設や同国でのパラリンピック・ムーブメントの振興への功績が称えられ、当財団理事長である宮澤は、ブータンオリンピック委員会(BOC)会長であるジゲル・ウゲン・ワンチュク国王弟殿下・第5代ブータン国王名代の意向により、BOC会長付名誉顧問に任命され、拝命した。また大変喜ばしいことに、同国パラリンピック陸上競技選手2名が2020年東京オリンピックの内定を果たした。

・エリトリア：現地訪問時に各関係機関及び団体等と協議を行い、調査を実施した。文化・スポーツ庁との協議により車椅子マラソン選手の支援が決定した。具体的な支援に関しては、協議を進めていく。また、同庁へのパラアスリート育成、環境整備のための寄付金を贈呈した。

・ミャンマー：現地訪問時に各関係機関及び団体等と協議を行い、調査を実施した。

次年度前期には、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける3カ国の代表選手や関係者の来日、事前キャンプ実施に向けての受け入れ体制を確定する予定である。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
パラリンピック支援	エリトリア、ブータン、ミャンマー	身体に不自由を抱えている選手、知的障害を抱えている選手	2016年より継続、通年支援を実施
備考	・【協働者(機関)】 各国オリンピック委員会、関係省庁および競技連盟、スポーツ庁、日本パラリンピック委員会、学校法人国際学園		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

(1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し、孤児たちが将来自立できるようにする。

・株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めている。ついては、職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供を積極的に進め、孤児院及び孤児院自立に向けた支援を継続的に行っている。

- ・今年度も継続的に支援を実施した。縫製工場の設立運営に関しては現在は株式会社矢部プロカッティングが資金面を含めて進めているが、世界こども財団では関係者との連絡調整やプランニング、翻訳業務といった面で支援を行った。次年度も継続予定である。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製職業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院のこどもたち、職員および地域住民	—
備考	・【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

(2) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、将来孤児院が自律的に運営できるようにする。

- ・金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。

2016年11月現地視察時、そのための支援として、孤児院に付属する農場経営へのアドバイス及び経営人材の育成を求められているので、その支援を行う。

- ・現地のニーズを確認し、2019年度も継続事業とする。
- ・今年度に関しては、具体的な孤児院支援は実施しなかったが、引き続き関係者との良好な関係を継続しており、ミャンマーへの訪問時に情報共有等を行った。次年度以降の支援については、先方のニーズを確認しながら協議をしていく予定である。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児院の分析および運営・経営候補者の研修	ミャンマー国内孤児院	ミャンマー孤児院のこどもたち	—
備考	・【協働者（機関）】 ミャンマー保健省・スポーツ省、学校法人国際学園		

(3) アジア地域で、知的発達障害のあるこどもとその家族を教育・医療・福祉の面で支援する団体を顕彰し、その活動を激励する。

- ・知的障害のある児童の教育に尽力し、成果を挙げている個人、団体を顕彰することにより、当該活動を支援するとともに、社会的認知を進め、環境改善につなげていく取組みである。
- ・Star Raft Awardとして提供。資金送付は2018年度中に実施しており、その授与が本年行われた。隔年開催のため次年度は開催はされないが、前回同様顕彰についてのAFIDからの打診、費用確認が次年度中に行われる予定である。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
Star Raft Award の提供	アジアの発展途上国	教育・医療分野の関係者	AFID 総会時顕彰
備考	・【協働者（機関）】 AFID(Asian Federation on Intellectual Disabilities)、学校法人国際学園		

V 前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

1 方針

前号 I～VIの目的を達成するために、草の根活動として下記事業実施した。

2 支援事業の概要

(1) 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループで協働の SKY プロジェクトへの参加支援

- ・2017年度から実施している SKY プロジェクトを継続して行う。実施時期は、SKY プロジェクト担当者会議で県および市町の要望に応えるよう継続して実施していく。
- ・2018年度は、留学生と地域の小中学生との交流が大変好評であったので、その交流を拡充することによって日本の子どもたちが、外国に対する意識を身近なことと捉えられるようさらに推進する。
- ・今年度も昨年度に引き続き、星槎国際湘南で学ぶ各国留学生が地域の小中学校を訪れ、子どもたちと母国の郷土料理を楽しむ給食交流や、鬼ごっこやかけっこといったイベントに参加した。また地域住民との郷土料理交流会にもご招待いただき参加し、多くの人々と交流を深めることができた。また、SEISA Africa Asia Bridge2019 では、一人でも多くの人にこの活動を知ってもらうべく SKY プロジェクトブースを設営し、活動内容を周知した。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
SKY プロジェクトへの支援	エリトリア ブータン ミャンマー	神奈川県内の主に大磯町を中心とした、保育園、小学校、中学校の園児・児童・生徒	—
備考	・【協働者（機関）】 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、学校法人国際学園 ・【2019年度実績】 大磯町立大磯小学校、同国府中学校、大磯町保健センター、小田原市立富士見小学校で実施		

(2) SEISA Africa Asia Bridge (SAAB)の開催

・当財団、学校法人国際学園共催の上記イベントを毎年 11 月に開催しており、その目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。

・今年で5回目となるこのイベントは、今年も「知繋(ちけい)」をテーマに2日間に渡って開催された。当財団も主催団体の一つとしてこのイベントの企画・運営に携わる。大使館含め総勢 7,738 名の来場者数があり、多くの方々と共にアフリカの持つ多様性の素晴らしさ、そしてその可能性について語り合い、共感し合う機会となった。実際に SAAB に参加したこどもたちが TICAD7 で発表したり、ニューヨークの国連本部を訪れたりするなど、世界各国に大きな懸け橋を築くことができた。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
SAAB2018 への支援	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	ブータンロイヤル・ティンプー・カレッジの学生を招聘	2019年11月9日～10日
備考	・【協働者(機関)】 学校法人国際学園 ・【後援(機関)】 外務省、神奈川県、横浜市、小田原市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、JICA 他		

(3) その他計画外で実施した事項

・ブータン、エリトリアでのスポーツ大会開催支援

ブータン：同国でのスポーツの発展・振興に寄与すべく、毎年開催されているブータンオリンピック委員会(BOC)主催のサイクリングレース、「ツアー・オブ・ドラゴン」や「ブータン国際マラソン」を地元企業と共同しゴールドスポンサーを務めた。ブータン国際マラソンでは、BOC やブータン国際マラソン運営委員会からの強い要望もあり、スポーツの発展のサポートの一環から日本モルテン製デジタルタイマーを2台寄贈し、スタート地点とゴール地点に設置し大会を盛り上げた。

エリトリア：エリトリアのスポーツを通じた青少年の育成、スポーツの発展に寄与すべく同国文化・スポーツ庁に寄付を行い、その一部を同国最大のマラソン大会であるアスマラマラソンの開催支援金とした。また、バスケットボール連盟やサイクリング連盟へは個別に大会実施にあたり寄付を実施した。

・アスリートの大会参加支援

ブータン：世界柔道東京大会へ出場した星槎道都大学ブータン人留学生2名の他に、現地オリンピック委員会や競技連盟の要望により、現地ブータンで練習に励むもう1名の大会参加支援を実施した。

エリトリア：8月の終わりにモロッコで開催されたアフリカ競技大会に、今年9月に星槎国際湘南を

卒業し、星槎大学へ進学したエリトリア人留学生 1 名が見事参加標準記録を突破し、出場を果たした。この大会に参加するにあたり、全面的な支援を実施した。

ブータン・ミャンマー：毎年 9 月に愛知県で実施され今年で 3 回目となるアーチェリー国際大会「ISPS ハンダカップ」に参加すべく、ブータン及びミャンマーから選手団を招聘した。今年も全日本アーチェリー連盟のご協力の元実施し、今年度はブータンから選手 5 名、コーチ 1 名。ミャンマーからは選手 3 名、コーチ 1 名を招聘。まずは愛知産業大学で合同練習を実施した後、本大会へ参加した。その後は全日本代表チームとの合同練習も実施した。星槎国際湘南で学ぶブータン人留学生 2 名もこの大会や合同練習に参加し、貴重な経験を得ることができた。

・ブータンロイヤル・ティンパー・カレッジ（RTC）の学生の招聘

星槎大学や RTC との協定に基づき、今年度も 1 月に「STAR プログラム」として、10 名の学生と 3 名の引率職員を受け入れ、日本での滞在を円滑で滞りのないものにするべく、全面的な支援を実施した。また、11 月に実施された SAAB に参加してもらうべく、別途 4 名の学生も招聘した。

・台風 19 号被害、首里城焼失に対する緊急募金活動

日本各地に大きな被害をもたらした台風 19 号の被害や、世界遺産に登録されている沖縄県那覇市の首里城焼失を受け、被災地の復旧・復興に向けた募金活動を実施した。